

■田沢義鏞 官僚，社会運動家。満鮮での日本人の傲慢さを見て，青年教育・選挙肅正に生涯かけるも挫折。“青年団の父”。

たざわよしはる

内閣発足・・1885＝ 佐賀県藤津郡鹿島村で，田沢義陳・みすの長男に生まれる。

帝国憲法発布1889＝ 4歳：鹿島小学校に入学，
旧鹿島藩主鍋島直彬の薫陶を受け，

日清戦争始・1894＝ 9歳：

田中正造直訴1901＝16歳：佐賀県立鹿島中学校を卒業。

日比谷公園・1903＝18歳：

第五高等学校を経て，
日露戦争終・1905＝20歳：この年，広島県の小学校教師山本滝之助が地方の青年組織支援を内務省へ働きかけており，東京帝国大学法科大学に入学。
日露戦後，自らは日本の支配下に入った満鮮地方を視察旅行して，日本人の傲慢さに義憤を覚え，また，地方農村の疲弊が進むなか，

伊藤博文暗殺1909＝24歳：卒業し，高等文官試験にも合格して内務省に入ると，青年組織対策へ対応すべく，
韓国併合・・1910＝25歳：*静岡県安倍郡長に任ぜられ，青年宿泊講習会に力を入れ，青年団の育成挺身への契機となる。
大逆事件判決1911＝26歳：結婚。

明治天皇没・1912＝27歳：

21ヶ条要求・1915＝30歳：明治神宮の創建が決まり，明治神宮造営局総務課長に異動すると，

べ埴仁条約・1919＝34歳：神宮の杜づくりに全国の青年団員の勤労奉仕を提案して実施し，
大暴落・・・1920＝35歳：*成功。修養団運動を通じて知り合った渋沢栄一の懇請に応じて{協調会}に入り，常務理事に就任。

原敬首相暗殺1921＝36歳：財団法人日本青年館の設立に参画，理事。

水平社結成・1922＝37歳：第4回国際労働会議に労働代表として出席。

関東大震災・1923＝38歳：関東大震災のころから政治教育の必要を感じ，

護憲三派圧勝1924＝39歳：{協調会}常務理事を辞任し，政治教育の雑誌「新政」発行など啓蒙活動を開始。静岡県安倍郡の青年団に乞われて衆議院議員立候補するも落選し，東京市助役に就任。

治安維持法・1925＝40歳：後藤文夫・丸山鶴吉らと中立政党樹立をめざして新日本同盟を結成。大日本連合青年団の発団を指導，

円本時代始・1926＝41歳：日本青年館開館とともに，常任理事に就任。

金融恐慌・・1927＝42歳：第1回普通選挙の実施をひかえて選挙肅正同盟会を創立，理想選挙を標榜して選挙肅正運動に乗り出す。

世界恐慌・・1929＝44歳：青年団活動を経験した壮年者による協同組織をめざして，壮年団期成同盟会を創立，

海軍軍縮条約1930＝45歳：両陛下に青年団について御進講。

満州事変・・1931＝46歳：武蔵小金井の日本青年館の別館{浴恩館}に青年団指導所を開設して，指導に当り，

国際連盟脱退1933＝48歳：妻が死去。同郷同窓の後輩で親友の下村湖人を所長に迎える。再び，御進講し，貴族院議員に勅撰。

帝人疑獄事件1934＝49歳：再婚。*日本青年館理事長・大日本連合青年団理事長に就任，

芥川直木賞始1935＝50歳：岡田内閣期に官民総動員の選挙肅正運動が推進され，みずからも選挙肅正中央連盟の常任理事に就任。
この運動の一翼をになった壮年団期成同盟会もまた田沢が中心になって組織した団体である。

二二六事件・1936＝51歳：*すべて辞任し，第一線を退く。広田弘毅首相から内務大臣入閣を求められるも固辞し，

日中戦争始・1937＝52歳：

第二次大戦始1939＝54歳：志願して，淀橋青果青年学校校長に就任するが，

日米開戦・・1941＝56歳：

戦局の進展とともに，自ら築いてきたものが潰されて行くのに，挫折を感じ，

年金+総武装 1944＝59歳：四国善通寺で講演中，敢えて敗戦を予言すると，突如意識不明となり倒れ，没した。